

一歩先の“主体的な学び”

＜本資料をご覧の皆さまへのお願い＞

本PDFは、2026年1月17日に株式会社COMPASSが開催したオンラインイベント「一歩先の“主体的な学び”」においてゲストの東京都町田市様およびCOMPASS（東京都渋谷区様、奈良県奈良市様の事例紹介を含む）より発表した資料です。※記載の情報はイベント開催時点のものです。

イベント参加者の皆様との情報共有のために展開させていただいているものですので、資料・資料内の情報の無断転載はご遠慮ください。

また、本セッションの様子はキュビナ公式Youtubeチャンネルに公開しています。PDF内でご紹介できない動画の内容もご確認くださいのでぜひご覧ください。
<https://youtu.be/C8XQ2USA7Zo>

※記載の情報、登壇者に関する情報はイベント開催時点のものです。

SESSION 1 学校現場における実践事例紹介

子どもたちの“主体的な学び”を育む
授業モデル構築の実証報告



町田市立藤の台小学校
主任教諭

深澤 友美 様



町田市立真光寺中学校
主任教諭

影山 泰明 様

登壇者紹介

授業モデルの構築・実践を
行っている
実証校の先生方



町田市立藤の台小学校
主任教諭

深澤 友美 様



町田市立真光寺中学校
主任教諭

影山 泰明 様

授業モデル構築、実践に
伴走させている
COMPASSのメンバー



株式会社COMPASS
未来教育室

青木 瞳子



株式会社COMPASS
未来教育室

板橋 和政

一歩先の“主体的な学び”

プロジェクト紹介

COMPASSが学校現場と取り組む
“主体的な学び”を育む授業づくり

“主体的な学び”の重要性

学びを自己調整し、次につなげる「主体的に学ぶ力」の重要性は今後ますます高く

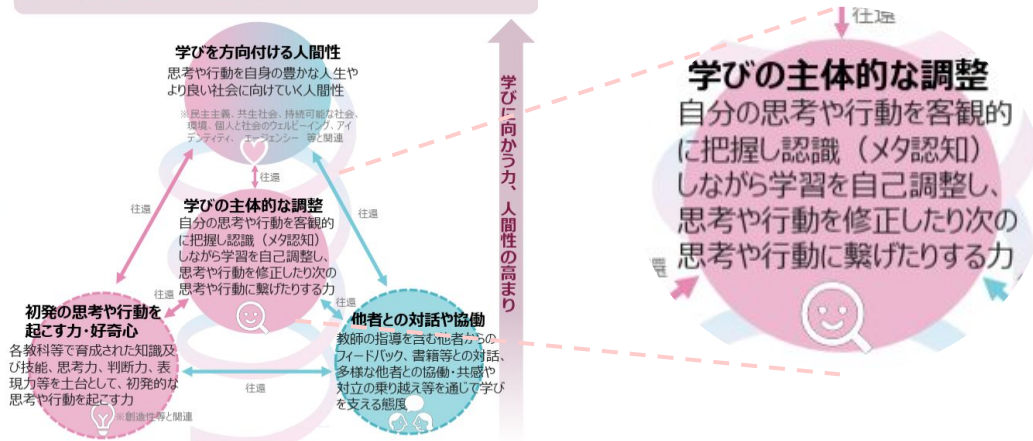
OECD Learning Compass 2030



The OECD Learning Compass 2030

【今後の整理イメージ】

変化が激しい不確実な社会の中で、学びを通じて自分の人生を舵取りし、社会の中で多様な他者とともに生きる力を育む



※「初発の思考や行動を起す力」と、「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」との往還を通じ、そのうち創造的に「必要と行動する経験」が培われ、「学びに向かう力、人間性高まり」が育まれる。

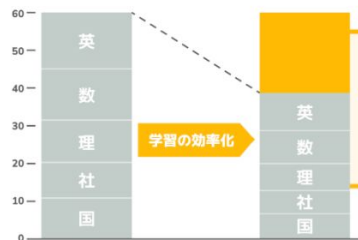
次期学習指導要領改訂に向けた「論点整理」
(文部科学省)より

COMPASSと“主体的な学び”

子どもたちの個別最適で“主体的な学び”を追求し続けてきたCOMPASS



公教育向け
探究プログラム



創出した時間を
探究的な学びへ



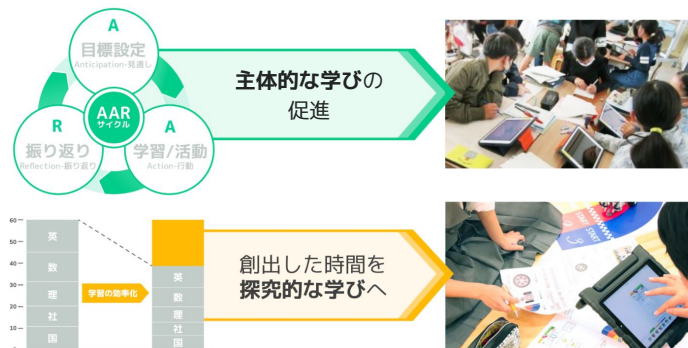
実証プロジェクトについて

キュビナを活用した主体的な学びの実証プロジェクト

教育現場の課題を解決し、学びの質を向上させるために、
AI型教材キュビナを活用した主体的な学びと探究的な学びを促進するプロジェクト

プロジェクトの目的

- 子どもたちの主体的な学びを促進
- 「誰と」「どう学ぶか」自己決定の機会を創出
- AI型教材「キュビナ」を活用し、個別最適な学びを提供



プロジェクトの流れ

1年間、実証校の先生とCOMPASSの担当者が協働し、
子どもたちの主体的な学びを育む新しい学びのデザイン を実践、
成果の振り返りを経て授業モデルとして他校に展開

授業案の 構築・実践

先生とCOMPASSで
授業を設計し
新しい学び方を試行、
改善を重ねていく



成果の 振り返り

学力テスト、学習データ、
アンケートなど
定量 × 定性データで
学びの変化を測定



モデル化し 他校展開へ

「授業モデル」として
型化、資料化し、
自治体内の他校に展開



本プロジェクトが目指す「主体的な学び」

子どもたち一人ひとりが、
自分で学びの進め方を考え、調整しながら学び続けられる学習サイクル

☑ ワクワク

学びへの興味や好奇心を原動力に、
自ら学びたくなる環境をつくる。

☑ 主体性

自ら学習の目標や進め方を決め、
考えながら学び続ける力を育む。

☑ 協働

他者と学びを共有し、
対話や意見交換を通じて新たな気づきを得る。



授業モデルの基本方針

子どもたちが主体的に学ぶ＝自ら学びをデザインする
自律的な学習の環境を整えながら、
最低限の学力を保証する仕組みを構築する。

1 自己決定の機会を増やす

主体的な学びには、自己決定の機会が不可欠。
授業の中で子どもたちの選択肢を増やすことで、
学びを自らデザインできる環境を提供

- ・ Who : 誰と一緒に勉強するのか？
(個人か、ペアか、グループか)
- ・ Where : どこで勉強するのか？
(教室内外のどこで勉強するか)
- ・ How : どのように勉強するのか？
(教科書、キュビナ、問題集、実験など)
- ・ What : 何を勉強するのか？
(テスト対策の復習、未修範囲の予習など)
- ・ When : 勉強のタイミングは？
(定められた単元範囲をいつ勉強するのか)

2

授業モデルの基本方針

子どもたちが主体的に学ぶ＝自ら学びをデザインする
自律的な学習の環境を整えながら、
最低限の学力を保証する仕組みを構築する。

1 自己決定の機会を増やす

主体的な学びには、自己決定の機会が不可欠。
授業の中で子どもたちの選択肢を増やすことで、
学びを自らデザインできる環境を提供

2 基礎的な学力を確実に身につける

自己決定の機会創出と同時に、基盤となる学力を
確実に保証することも教科の学びにおいては必要。
最低限の学力保証の仕組みを
セーフティネットとして用意する

学習eポータル + AI型教材



キュービナによる
個別最適な学習が
効率的な理解・定着をサポート

24年度取り組み事例～渋谷区教育委員会様～

「未来の学校プロジェクト」

渋谷区が目指す未来の学校における
「自律した学習者を育む環境」づくりの一環として

実証校とした区立中学校3校の
理科・数学の2つの教科で
①生徒の自己決定の機会創出
②キュビナによる基礎学力の保証
となる授業モデル構築の取り組みを実施

その効果を分析しました。

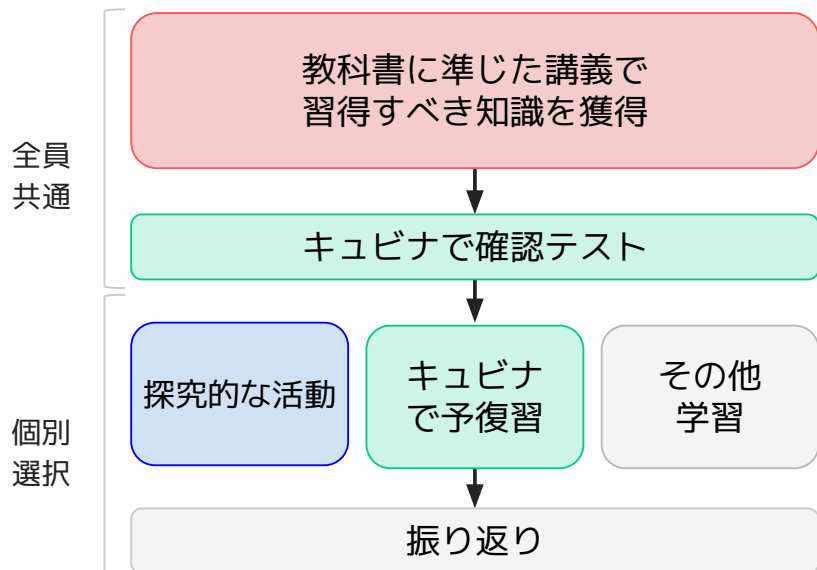


渋谷区様での実践事例

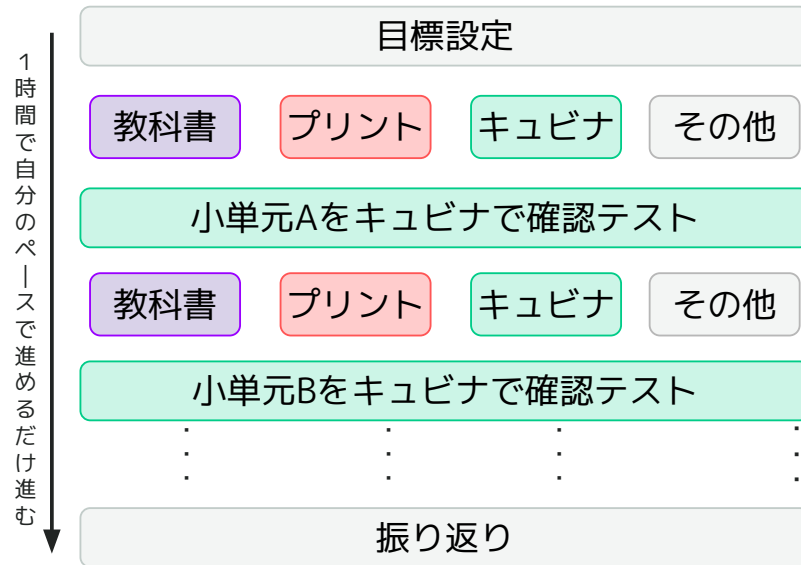
学習形態	＜部分導入＞ 全員共通＋個別選択の2パート構成	＜全体導入＞ 単元内自由進度学習
今回の実践教科	理科	数学
ねらい	教師主導のパートを設けながら、 徐々に自己決定を取り入れる。	より高い自由度の学びを提供し、 主体的な学びを促進。 (ベースとなる自律的な学習の習慣あり)
自己決定の要素	Where：学習の場所 Who：協働する相手 How：学ぶ方法・使用する教材 What：学習の内容	Where：学習の場所 Who：協働する相手 How：学ぶ方法・使用する教材 When：学習のペース What：学習の内容
基礎的な学力を 身につける仕組み	・ 全員共通パートの講義 ・ 講義ごとのキュビナによる確認テスト	・ 小単位ごとのキュビナによる確認テスト

渋谷区様での実践事例

理科：全員共通と個別選択を半々



数学：単元内自由進度学習



渋谷区様での実践効果

学習意識や行動の変化を調査する生徒向けアンケートでは、 多くの項目でポジティブな変化

事前→事後で、特に統計的に有意な向上を確認できた項目の例

- ・自らの学習の進め方を振り返っている (2.85 → 3.10)
- ・授業や単元で出される課題の難易度は、自分に合っていると思う (2.94 → 3.11)
- ・数学/理科の授業の内容はよく分かる (2.87 → 3.03) ※4段階評価での回答をスコア化

※実証の事前・事後に同内容のアンケート調査（全16問、4段階評価）を実施

※回答を1~4でスコア化し、事前・事後での変化量をt検定で分析。p値が有意水準 5% 以下のものを「特に統計的に有意な差」と判断



渋谷区様での実践効果

実践の事前・事後テストでは、 多くの学年・教科でテストスコア向上

■ 5%水準（ $p < 0.05$ ）で統計的に有意な向上が確認された項目

学校名	教科	学年・教科	人数※	事前テスト 平均点	事後テスト 平均点	変化量
中学校A	数学	中学2年	87	43.9	51.5	+ 7.6
中学校A	数学	中学3年	62	48.1	53.8	+ 5.7
中学校B	数学	中学1年	21	31.3	44.3	+ 13.1
中学校B	数学	中学3年	49	44.0	41.4	- 2.6
中学校C	理科	中学3年	55	41.0	50.8	+ 9.8

※対応のある平均値の差の検定（対応のあるt検定）を行い、p値が有意水準 5%/10% 以下のものを統計的に有意な差と判断。
（偶然起こる確率が5%/10%以下である）

※事前・事後テストの両方とも受験した生徒を対象とした。

今年度の取り組み

渋谷区

昨年度の取り組みを元に実践校、実践教科の拡大へ

今年度実証開始
自治体

実証校としてご協力をいただいている学校の先生方と
取り組み進行中

町田市立藤の台小学校

町田市立真光寺中学校

奈良市立済美小学校 ほか

実践事例紹介

町田市立藤の台小学校
町田市立真光寺中学校
奈良市立済美小学校

一歩先の“主体的な学び”

学び方も作品も、 “自分の読み”で切りひらく —“技”を見つける国語の時間—

町田市立藤の台小学校 6年生 国語

課題

- 読解単元においては、**一斉に同じ読み進め方で授業が進み、理解の差**が見えにくかった。
- 児童は指示待ちになりやすかった。

単元の流れ

小学
6年生

国語

単元：『鳥獣戯画』を読む（光村図書）

単元のゴール：筆者の技（文章を分かりやすく伝える工夫）を見つけよう。

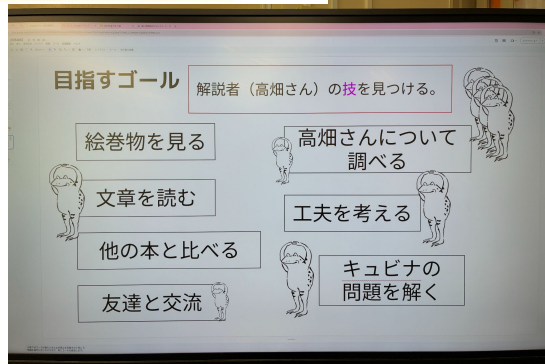
時数	活動内容
導入 (1時間)	- 教師が単元全体の学習課題と、これからの活動の全体像を提示する - 教師がこれまで行ってきた学び方を一つ一つ挙げ、様々な学び方があることを児童に意識づける
自律的な学び (1時間×4サイクル)	- 児童は学習課題に向かって、自分の理解状況を確認しながら学びを進める - 学習計画表を使って、学び方や取り組む内容を自身で調整する
まとめ (1時間)	- 教師が各児童が見つけた筆者の工夫を聞き取り、分類してまとめる - 教師が各児童の学び方の違いをクラス全体に共有し、児童が次の学習の参考にできるようにする

実際に使用した振り返りシート

授業での「頂上」とは・・
めあてを達成すること！
問いの答えを見つけること！



課題設定		とらえよう ふかめよう		まとめよう		ひろげよう	
め	め	め	め	め	め	め	め
単元めあて 解説者（高畑さん）の技とは何か？ 学びの計画を立てる							



5分全員共通

学習の 見通し

児童の
動き

- 「誰と／どのように」 学ぶかを決める
- 計画を学習計画表に記入する

教師の
動き

- 学び方の選択肢を示し、それぞれの特徴を簡単に伝える。
- 計画は、学習の途中で見直してよいことを伝える。

5分全員共通

35分 個別選択

学習の 見通し

自律的な学び

児童の動き

- 「誰と／どのように」学ぶかを決める
- 計画を学習計画表に記入する

- 学習課題に必要な知識や考え方を、**選んだ方法でインプット**する（教科書本文を読む/先生の解説を聞くなど）
- キュビナで文章を正しく読めているか**を確認する
- 必要な場合は他の読み物や資料を活用することもOK

教師の動き

- 学び方の選択肢を示し、それぞれの特徴を簡単に伝える。
- 計画は、学習の途中で見直してよいことを伝える。

- 子どもの学習状況を見取りながら、計画どおりに進められているかを確認する。
- 立ち止まっている子や、進め方に迷っている子には声をかけ、**学び方の選択を支援する**。

5分全員共通

35分 個別選択

5分全員共通

学習の見通し

自律的な学び

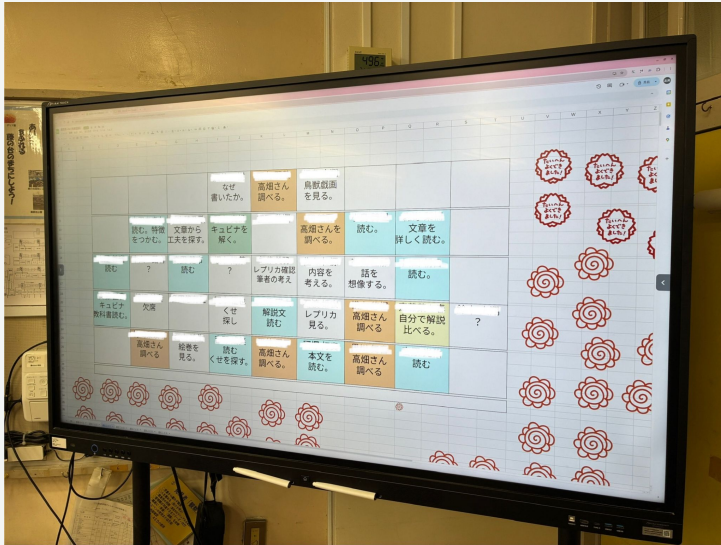
振り返り

児童の動き

- 「誰と／どのよう
に」学ぶかを定める
- 計画を学習計画表に
記入する

教師の動き

- 学び方の選択肢を示し、それぞれの特徴を簡単に伝える。
- 計画は、学習の途中で見直してよいことを伝える。



- 振り返りシートに、
見つけた筆者の技と
自らの学び方を記入する
- 進捗や気づきを
クラス全体に共有する

- 個々の取り組み内容や進捗を電子黒板に表示し、**他者の進め方を参考**にできるようにする。
- 学習計画表とノートを回収し、次の授業までにコメントを記入する

自己決定のポイント

小学
6年生

国語

改善ポイント① 単元の“内容”だけでなく“学び方”を身につける

- 読解の内容理解と同時に、「自分に合う学び方を選び、必要に応じて変える」力を育てる。
 - 学び方とその特徴を選択肢として示し、児童が選べるようにした。
 - 各児童の学び方を電子黒板に映し、他の児童の学び方を参考にできるようにした。
 - つまずく児童には最初の一步を教師と一緒に伴走した。
(例：最初の15分だけ教師と本文を読み、以降は自分で学び方を選択する)

自己決定のポイント

小学
6年生

国語

改善ポイント① 単元の“内容”だけでなく“学び方”を身につける

- 読解の内容理解と同時に、「自分に合う学び方を選び、必要に応じて変える」力を育てる。
 - 学び方とその特徴を選択肢として示し、児童が選べるようにした。
 - 各児童の学び方を電子黒板に映し、他の児童の学び方を参考にできるようにした。
 - つまづく児童には最初の一步を教師と一緒に伴走した。
(例：最初の15分だけ教師と本文を読み、以降は自分で学び方を選択する)

改善ポイント② 振り返りを通して学び方を調整する

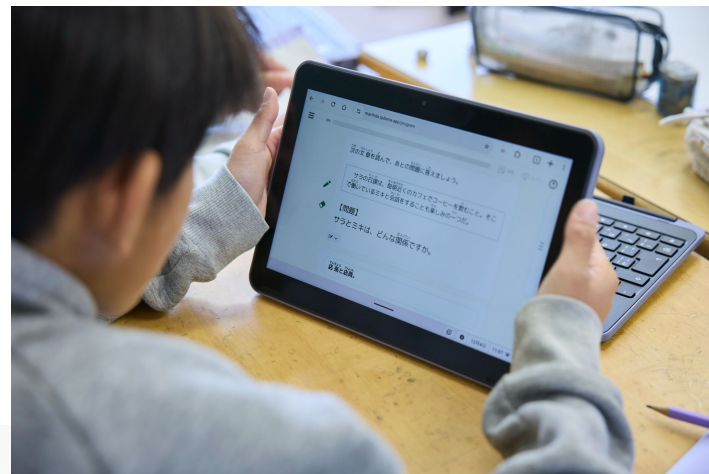
- 自分の学び方を見直し、次の行動につなげる力を育てる。
 - 振り返りシートには、「誰と」「どのように」学んだかを記入し、自分の学び方を言語化できるようにした。
 - 単元の途中で中間振り返りを行い、これまで選んだ学び方がゴールに向かっているか客観視する時間を設けた。
 - 振り返りシートは毎時間回収して学習状況を把握し、必要に応じて支援に繋げた。

学力の保証（キュビナ活用ポイント）

小学
6年生

国語

- キュビナは、学び方の選択肢の一つとして位置づけ、子どもが自分の判断で必要なタイミングに取り組めるようにした。
- 本文理解の土台を補強するために、読み取りの要点整理や教科書本文中の語句の意味確認に活用するように促した。



成果

- 児童が「誰と・どう学ぶか」を選び、必要に応じて読み方を変えながら学べるようになった。
- 教師は学習状況を見取り、必要な児童に支援を入れるようにした。

カラーテストの変化（学級平均）

- 事前テスト平均正答率：80.5%
- 事後テスト平均正答率：88.0%
- 平均差：+7.5pt



一歩先の“主体的な学び”

自分の目標に向かって、 自律的に学ぶ数学の授業

町田市立真光寺中学校 3年生 数学

課題

- 生徒が自分の理解度や**学習方法を振り返り、調整する機会**が少なかった。
- 教師が生徒一人ひとりの**理解状況を把握しづらく、全体の学力の底上げが課題**となっていた。



単元の流れ

中学
3年生

数学

単 元：相似な図形（東京書籍）

単元のゴール：相似の意味やきまりを理解し、図形の性質や比の関係を使って問題を考えたり、生活や学習に生かしたりする。

時数	活動内容
導入 (1時間)	● 教師が単元の導入となる説明を行い、学習内容の概要を伝える ● 教師が単元全体の学習の見通しを示す ● 生徒が単元を通した個人目標を設定する
自律的な学び (2時間×7サイクル)	● 生徒は基礎的な知識や考え方をインプットする ● 生徒が自分の学習計画をもとに問題演習に取り組む ● 生徒は自分の理解度に応じて、学習内容や進め方を調整する
まとめ (1時間)	● 生徒が自分の理解度に応じて、単元で不足している学習を行う ● 生徒が単元全体を振り返り、次の学びに繋げる

5分全員共通

学習の
見通し

生徒の動き

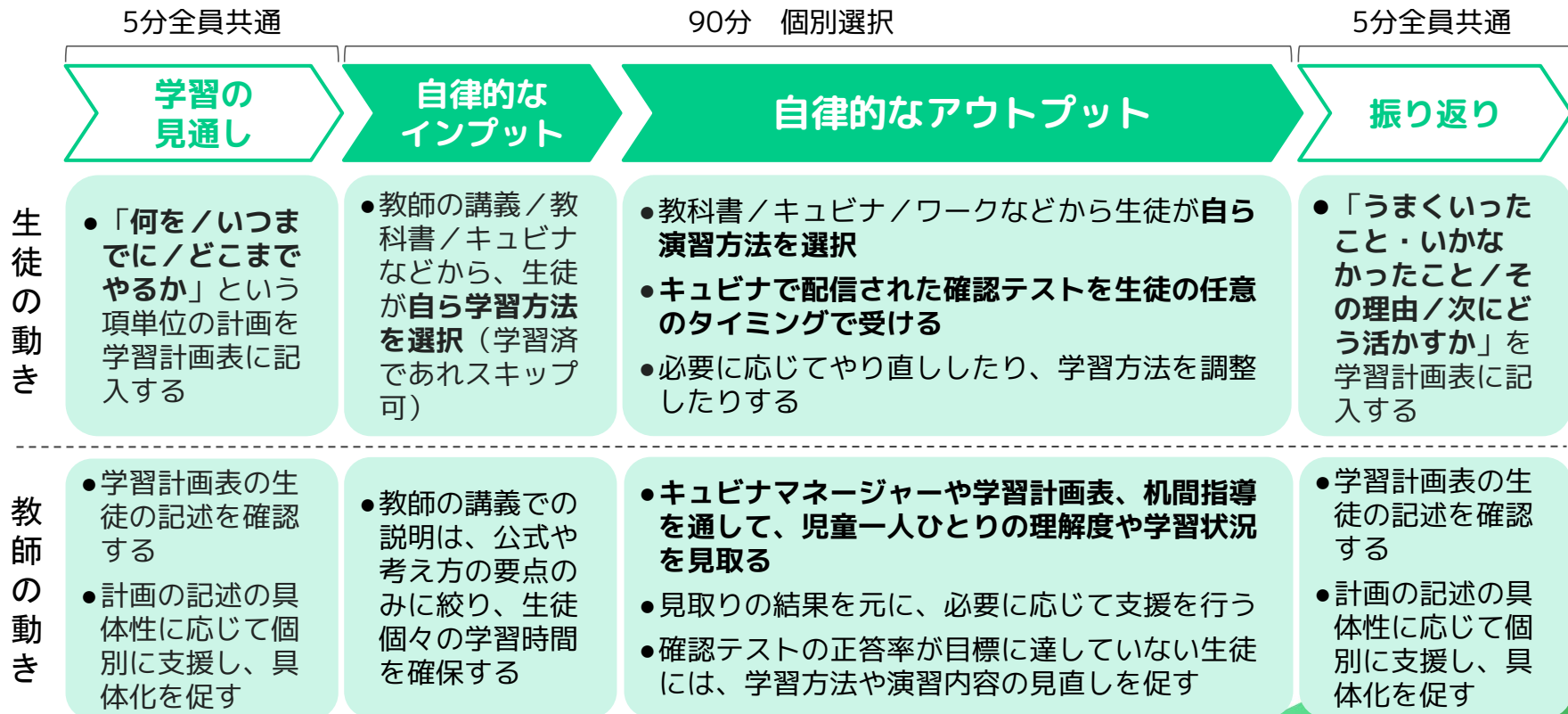
- 「何を／いつまでに／どこまでやるか」という項単位の計画を学習計画表に記入する

教師の動き

- 学習計画表の生徒の記述を確認する
- 計画の記述の具体性に応じて個別に支援し、具体化を促す

・学習計画表

項	教科書ページ	ワークページ	キュビナ	学習時間の目安	計画（何を・いつまでに・どこまでやるか）
相似な図形	127～134	96～97	相似な図形（基礎） 相似な図形（発展）	3時間	・ 確認テスト（10分） ・ ワーク（60分） ・ 教科書（20分）
三角形の相似条件	135～138	98～101	相似条件（基礎） 相似条件（発展）	2時間	・ 確認テスト（15分） ・ ワーク（45分） ・ 教科書（20分）
相似の利用	139～142	102～103	相似の利用（基礎） 相似の利用（発展） 誤差と有効数字（基礎） 誤差と有効数字（発展）	2時間	説明を踏まえてワークなどの問題を解き相似の利用の理解を深め難しめの問題をできるようにする
					相似の利用をいかしクエストを解く残りの時



改善ポイント① 単元の目標と全体像を示し、プロセスを委ねる

- 単元のめあてや到達目標（確認テスト70%以上）を単元の最初に全体で共有し、**学習のゴールを明確にした**。
- 対応する教科書のページ数やキュービナの範囲など、**単元の学習に必要な情報を学習計画表にあらかじめ示し**、それを元に生徒が学習計画を立てられるようにした。
- 生徒が自分の理解状況に応じて、**インプット／アウトプットの方法や確認テストを受けるタイミングを選択**できるようにした。

改善ポイント① 単元の目標と全体像を示し、プロセスを委ねる

- 単元のめあてや到達目標（確認テスト70%以上）を単元の最初に全体で共有し、**学習のゴールを明確にした**。
- 対応する教科書のページ数やキュビナの範囲など、**単元の学習に必要な情報を学習計画表にあらかじめ示し**、それを元に生徒が学習計画を立てられるようにした。
- 生徒が自分の理解状況に応じて、**インプット／アウトプットの方法や確認テストを受けるタイミングを選択**できるようにした。

改善ポイント② 到達目標を明確に示し、学力保証と自律性を両立させる

- **確認テストを「到達すべき目標」として位置づけ**、基準を明確にすることで、生徒が目標とする正答率を意識しながら学習を進められるようにした。
- 教師は確認テストの結果を、**支援が必要な生徒を判断する材料**として活用した。

キュビナ活用ポイント

中学
3年生

数学

・ 確認テスト（ワークブック）の結果を教師が確認する画面

- **学習の選択肢の1つ**として
キュビナを提示した。
- **ワークブックを確認テストとして活用**し、生徒が結果をもとに
学習内容を自己調整できるようにした。
- 教師はキュビナマネージャーの
学習データをもとに、生徒一人ひとりの
理解度や進捗状況を見取り、
個別支援に生かした。



成果

- **目標立案や学習計画、振り返りの機会**を授業に組み込み、生徒が**自分の理解に応じて学びを調整**できるようになった。
- 教師は、**学習状況が可視化**された情報を見取り、**必要に応じた支援**を行えるようになった。



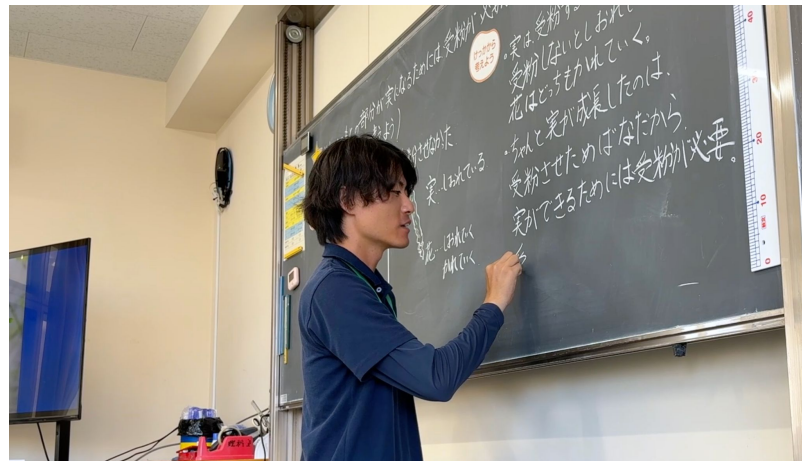
一歩先の“主体的な学び”

児童が夢中に、自律的に学習しながら 資質・能力を身につける理科の授業

奈良市立済美小学校 5年生 理科

課題

- 児童は学習に対して「どのように取り組むか」を自分で判断する場面が少なかった。
- また、学習への主体的な関与や理解状況を教師が把握しづらかった。



単元の流れ

小学
5年生

理科

単元：ふりこのきまり（啓林館）

単元のゴール：メトロノーム（振り子）を曲のテンポに合わせて動かせるようになる。

時数	活動内容
事前知識のインプット (1時間)	- 教師が単元の学習課題を示す - 児童は単元の学習課題に対する取り組み方を考える - 教師が実験の前提として必要な概念や知識を説明し、キュビナで確認
自律的な学び (3時間)	- 児童は学習課題の解決に向けて、グループで実験方法を検討・実施 - 児童は、単元の学習内容に対する自分の理解に応じて、学習の調整を行う。
探究的な学習 (1時間)	- 単元の内容について、自ら立てた問いを調べ、まとめる。 - まとめた内容を児童同士で共有する。

5分全員共通

学習の
見通し

児童の動き

- 学習課題を確認し、「どのように取り組むか」を振り返りシートに記入する

教師の動き

- 振り返りシートの児童の記述を確認する
- 数名の生徒に発表を促し、その場で短くフィードバックする

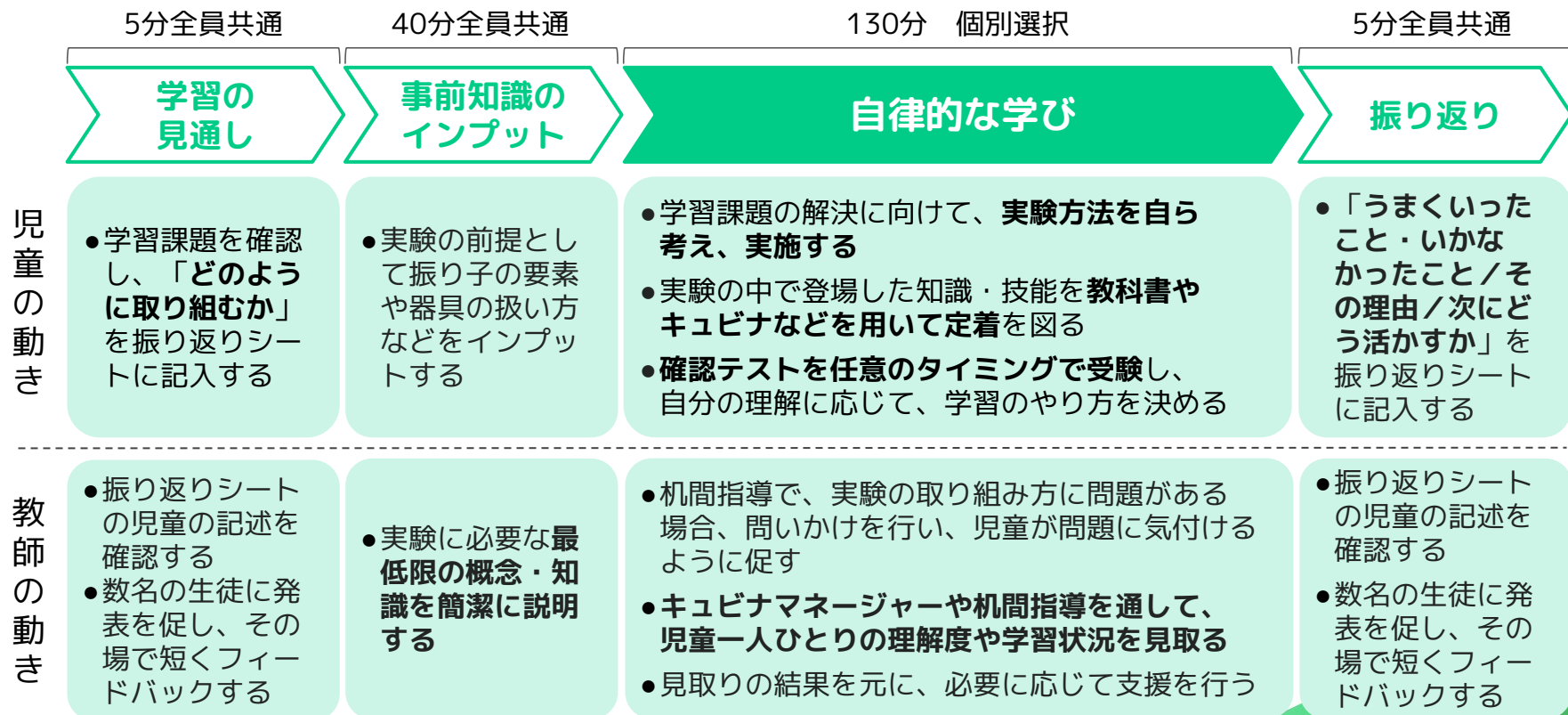
・振り返りシート

課題：ふりこの1往復する時間は何によって変化するのか条件を変えながら調べよう	
	めあて（課題に対してどのように取り組むか）
「今日のめあて」はたっ せいできましたか？	ふりかえり（①うまくいったこと・いっていないこと／②それはなぜか／③次にどう活かすか）
	条件を変えながら調べて、おもりを重くしたり、ひもを長くしたりすることで振り子の1往復する時間が長くなるか、短くなるかを周りの意見を聞きながら表に書き整理し、何を変えたらどうなるのか、自分でまとめられるようにする！

授業の流れ

小学
5年生

理科



5分全

・振り返りシート

5分全員共通

振り返り

児童の動き

- 学習し、
に取
を振
トに

教師の動き

- 振り
の児
確認
- 数名
表を
場で短
ドバッ

課題：ふりこの1往復する時間は何によって
変化するのか条件を変えながら調べよう

「今日のめあて」はたっ
せいでできましたか？

めあて（課題に対してどのように取り組むか）

ふりかえり（①うまくいったこと・いっていない
こと／②それはなぜか／③次にどう活かすか）

条件を変えながら調べて、おもりを重くしたり、ひもを長くし
たりすることで振り子の1往復する時間が長くなるか、短くな
るか周りの意見を聞きながら表に書き整理し、何を変えたら
どうなるのか、自分でまとめるようにする！

「振り子の1往復する時間は、振れ幅を変えても、重りの重さ
を変えても変わらず、振り子の長さを変えることで振り子の1
往復する時間は長くなったり短くなったりする。」と、自分で
まとめることができた。今回の成功の要因は、結果から詳しく
考えることができたからだと思う。別の曲でも振り子の長さを
どう変えるとテンポが合うようになるか考えてみたい！

とてもよくできた

- 「うまくいった
こと・いかな
かったこと／そ
の理由／次にど
う活かすか」を
振り返りシート
に記入する

- 振り返りシート
の児童の記述を
確認する
- 数名の生徒に発
表を促し、その
場で短くフィー
ドバックする

改善ポイント① 一斉指導で土台をそろえた上で委ねる

- 実験の前に、**最低限必要な知識や技能について、一斉指導**で共通理解をそろえた。
（振り子の要素、器具の扱い方、安全面など）
- **実験方法の検討や条件設定はグループに委ね**、教師は巡回しながら、必要に応じて確認や方向づけを行った。
- 知識の定着や理解の深まりについては、**児童が自分の方法やペースで進める機会を設定**。

改善ポイント① 一斉指導で土台をそろえた上で委ねる

- 実験の前に、最低限必要な知識や技能について、一斉指導で共通理解をそろえた。
（振り子の要素、器具の扱い方、安全面など）
- 実験方法の検討や条件設定はグループに委ね、教師は巡回しながら、必要に応じて確認や方向づけを行った。
- 知識の定着や理解の深まりについては、児童が自分の方法やペースで進められるようにした。

改善ポイント② 到達すべき基準（確認テスト）を示し委ねる

- 確認テスト（キュビナのワークブック）を受けることは全員共通とし、**児童全員が到達すべき基準として示した**（評価基準のB基準にあたる）。
- 基準に達することを目標に、児童が**自分に適した学習方法を選び**、確認テストの結果を自己調整の材料に**自らの学習を見直せる**、自律的な学びの時間を設けた。

キュビナ活用ポイント

小学
5年生

理科

- ・ 実験に最低限必要な知識・技能の共通理解を揃えるため、**一斉指導後にキュビナで確認。**
- ・ 確認テスト（ワークブック）を**学習状況を把握するツール**として活用し、児童がその結果をもとに自己調整できるようにした。
- ・ 教師はキュビナマネージャーをもとに、児童一人ひとりの**理解度やつまずきを見取り**、必要に応じて個別に支援を行った。

・ 確認テスト（ワークブック）の結果を教師が確認する画面



成果

- 学習への取り組み方を児童に委ね、**確認テスト（ワークブック）や振り返りシート（スプレッドシート）**を活用して学習状況を可視化した。
- **児童は自ら学習を調整**しながら主体的に取り組み、**教師は見取りに基づいた適切な支援**ができるようになった。

成果

- 学習への取り組み方を児童に委ね、**確認テスト（ワークブック）や振り返りシート（スプレッドシート）**を活用して学習状況を可視化した。
- 児童は自ら学習を調整**しながら主体的に取り組む、**教師は見取りに基づいた適切な支援**ができるようになった。

テストの変化

指標	事前テスト	事後テスト
平均正答率	63.7%	82.0%
中央値	64.0%	86.5%
上位層割合（80-100%）	27.1%	64.3%

※ n=70（事前・事後テストとも受験した児童）

一歩先の“主体的な学び”

トークセッション

授業デザイン実践以前に 抱えていた課題は？

“自律的な学び”を授業に取り入れる 「最初の一歩」は？

“自律的な学び”を実現する授業における 先生の役割は？

**子どもたちの“自律的な学び”のための実践を
周囲にも波及させていくためには？**

今後の展望・ 参加の皆さんへのメッセージ

一歩先の“主体的な学び”

次期学習指導要領改訂に向けて

これからの“主体的な学び”のためにできること